

令和3年度 学校評価報告書 (目標設定、実施結果)

Table with 10 columns: 視点, 4年間の目標 (令和2年度策定), 1年間の目標, 取組の内容 (具体的な方策, 評価の観点), 校内評価 (達成状況, 課題・改善方策等), 学校関係者評価 (3月23日実施), 総合評価 (3月30日実施) (成果と課題, 改善方策等). Rows 1-3 cover 教育課程学習指導, 生徒指導・支援, and 進路指導・支援.

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月30日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	③多様な進路選択に対応できる基盤の育成。	参画する意識を養うと共に、進路希望の実現に向けて主体的に努力する姿勢を育てる。	た、保護者対象の進路説明会を開催する。	にキャリアデザイン的设计に向け努力をし、進路実現を果たすことができたか。	(公募制)の受験者は昨年度の8名から15名に増え、指定校に頼らない主体的な進路実現を目指す生徒を増やすことができた。	導を充実させていく必要がある。	と思う。 ③課題研究の充実の結果として、生徒の主体的な学習にとどまらず、進路選択にも通じる。今後も素晴らしい流れを継続してほしい。また、自分の志向や力を考えて進路を選択する生徒が増えてきているように思われる。 ③外国につながるのある生徒の高等教育への進学率が約40%と低く、一層の配慮・支援が必要である。	きた。	進路決定を支援するための具体的な方策と指導体制を構築する。
4	地域等との協働	①地域に潜在する教育力を活用し、いろいろな事に興味関心を持たせ積極的に行動することで、社会をしなやかに生きる力を獲得させる。 ②安全・安心な学校生活を保障する環境整備及び防災教育と災害発生時の体制を整備する。	①地域の行事や地域から要請のあったボランティア活動等に積極的に参加できる環境を整備する。 ②防災意識を継続的に持たせるために効果的なアプローチを行えるように工夫する。	①地域の行事やボランティア活動への積極的な参加を呼びかけ、社会貢献が重要であるという意識を育む。 ①福祉厚生委員会の活動の機会を増やす。 ②防災教室・訓練を計画的に実施するとともに、地域と連携し具体的な防災訓練の検討を行う。 ②災害発生時の保護者への情報伝達に利用するマチコミメールへの登録を促す。	①生徒の社会貢献への意識が高まったか。 ①参加要請にどれだけ応えられたか。また、委員会以外の生徒のボランティア等への参加割合が増加したか。 ②防災訓練の他に定期的に防災について考える機会があったか。 ②地域の防災訓練を把握し、本校が具体的に協力できる内容を検討したか。 ②マチコミメールへの登録総数95%を超えたか。	①ボランティア要請が激減する中でも、数少ない要請に応えてくれた生徒がいた。 ②今年度の防災訓練では生徒に訓練日を伝えず実施した。また、訓練以外でも2年次総合学習において、避難所運営ゲームを実施した。 ②保護者には定期的にマチコミメールへの登録を促し、98.6%と高い登録者数となった。	①対面・直接ではないボランティアのあり方を確立することができるか。 ②防災訓練が訓練を実施するだけとならぬよう工夫する。また、校内の防災用品を再点検し、計画をたて、更新、充実させていく。 ②生徒登録総数は85.7%にとどまっておらず、全体では92%であったため、生徒登録者数を高める。	①今年度もコロナ禍でできなかったボランティア活動だが、コロナの状況が好転した際に前向きに臨めるように意識づけを継続してほしい。 ①コロナ禍でも地域との触れ合いの場を見つける努力がなされている。 ②避難所運営ゲームが実施されたことは、教職員の工夫があったと察している。 ②マチコミメールでの連絡はとてもよいと思うが、外国につながるのある生徒の保護者への配慮(ルビ付き、多言語)があればなおよい。	①コロナ禍で活動が制限されたとしても、ボランティア活動の意義を理解し、生徒の意識を高める取組は必要である。 ②様々な情報伝達手段を活用した、正確な情報伝達を行うことが重要である。	①地域の意見やニーズを把握し、新たな視点での活動を模索する必要がある。 ②生徒・保護者や地域に対して、正確で迅速な情報伝達の手段を確保する必要がある。 ②情報伝達に外国につながるのある生徒の保護者への配慮(ルビ付き、多言語等)が必要である。今後検討を進める。
5	学校管理 学校運営	①職員のワークライフバランスを推進する働き方改革の促進。 ②生徒と向き合う時間を確保するために、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。	①ICTを利活用した授業づくりや多様な働き方に対応できるようICT利用推進及び機器、運用方法等を整備する。 ②学校閉庁日、ノー会議デー及びノー残業デーの設定と実施をする。	①ICT機器利用に係る情報を整理し、「新しい生活様式」の中での業務遂行においてICT活用を推進する。 ②学校閉庁日、ノー会議デー及びノー残業デーの設定と年休の取得を促進する。	①授業や学校業務においてICTを利活用しやすいうように、各機器の整備や管理簿作成、情報管理室の整理ができたか。 ①所属サーバーの廃止に伴うTeamsへの移行が計画的にできたか。 ②それぞれの設定日を着実に実施できたか。また、年休取得率についての検証を行う。	①全HRクラスにディスプレイを常設し、授業でChromebook等を活用しやすくなった。また、各機器の整備や情報管理室の使用しやすさも少しずつ改善している。 ①所属サーバーの廃止に伴うTeamsへの移行を計画的に実施することができた。 ②学校閉庁日の設定により、年休の取得率は高まった。しかし、ノー会議デー及びノー残業デーの設定には至らなかった。	①来年度入学生より実施される「個人所有による生徒1人1台端末」導入により、必要となるものを見極め、アクセスポイントや各機器等、計画的に整備を継続する。 ①機器を整備するとともに、機器の使用法や活用方法等を示し、更に活用しやすくする。 ②働き方改革やライフワークバランスの観点からも、ノー会議デー及びノー残業デーの実施に向けて具体的な取組をすすめる。	①ICTの利活用のための環境整備の努力を評価している。また、ICTを利活用した授業が進む中で、学校管理と運営によく努力している。 ①ICT化により、かえって教員が多忙にならないかが気になる。その点の配慮と対策をお願いしたい。 ②会議は、時間と場所を縛りつけるわりには、効果が上がらないという。教職員それぞれが「会議をしなければならぬ」という意識を変え、職員室の席のそばでちょっとした会話や立ち話で気になったことを伝えあう時間を大切にしていきたい。	①中継や配信用の機材の導入により、オンライン環境は劇的に飛躍した。また、各式典行事などは充実したオンライン配信をすることができた。 ①生徒一人一台端末の導入により、必要となるものを見極め、アクセスポイントや各機器等、計画的に整備を進めていく必要がある。 ②学校閉庁日は年5日設定することができた。	①生徒一人一台端末の導入に向けて、ICT機器を利活用した学習環境の更なる充実を図る。 ②一部の担当者だけではなく、引継ぎ業務を含めて、誰でもその業務が担当できるような業務分担と校内体制を構築する。 ②ICT機器の利活用等を通じて業務の在り方を見直し、職員それぞれの働き方に応じた業務遂行が可能となるような校内体制を検討する。